

「ネット出版を考える」

1月24日、テレビ岩手（13時55分～15時50分）の番組「情報ライブミヤネ屋」を見た。

昨年、幻冬舎発売（10月21日）の絵本、にしのみきひろ著「えんとつ町のプペル」（定価2,000円）、売り上げが急増しているという。

Amazon「本の売れ筋ランキング」「絵本・児童書売れ筋ランキング」とともに第一位をキープ（1/22現）し、現在25万部売れている。

ネットの無料版（1月19日）が発売され、そのことでネットが炎上し、番組に取り上げられていた。

反対意見として、「市場崩壊だー!」「金の奴隷だー!」「炎上商法だー!」「クリエイターをナメているだー!」他にも多い。

本人の説明によると、作品は多くの人による分業で作られた。そのためには多くの人に知ってもらい、部数を伸ばしたい。買う、買わない、選択は読者が決める。音楽（CD購入）と同じように考えて欲しいと話している。またネットは無形、本は有形で子供に説明するには本が一番とも話している。詳細は本人のブログ参照の事。[\(http://lineblog.me/nishino/\)](http://lineblog.me/nishino/)

今日はたまたま二人でTVを見ていた。細君は絵本、児童書が好きで見入った。ネット不慣れの細君に見終わってから無料版を全42ページPDFに変換してタブレットを渡してあげる。

私はネットの無料公開という商法に興味を持った、英断に拍手したい。

キングコング西野氏は有名人にもかかわらず、制作期間中に予約制をとる、また自身で1万部購入するなど部数を伸ばす工夫をしたという、最後はネット上で無料公開した。

意味合いは少し違うが、同じようなことを考えていて面白かった。たとえ無料でも興味ないと見ない、買わない。ネットの本質は無料公開そのものだろう。彼の場合は有料と無料があることが問題となった。

最近、一日の大半を終活作業？に費やし、写真撮影はHP更新（5日目）だけにしている。手がけている作業の一つに『鮭の写真集』がある。（変B5番、110頁、写真178枚）制作期間はこれから半年を予定している。① 表紙カバーが完成したのでお見せする。

西野氏と大きく違うのは予約制にしても注文者はない。日本初の写真集とうたっても出版社は取り合ってくれない。自費出版だと経費が高くついて採算が合わない。最後の選択肢？ネットで無料公開ありと考えていた、そんな矢先であった。

そのことは単行本「ミサゴ撮影記」定価2,600円（経費は倍）で経験している。将来、セットで無料公開する？

また本は三地区（盛岡、八戸、宮古）の図書館にある、貸出希望者あるのだろうか、それが問題だ？ HPの電子書籍版はまったく反響がない。

それとネット公開することの落とし穴？ 一度公開するとネット上に半永久的に残存する。HPは削除すれば済むが「検索エンジン」で吸い上げられたものは別だろう。

最近見つけた一つに「額装のアイデア」がある、表現力のなさが恥ずかしい。素人だから良しとするわけにいかない、参った！



発行者：佐々木 しげる

〒027-0007 岩手県宮古市日影町8番6号

定価 円（税別）

鮭が飛ぶ

ほとぼしる命の瞬間

佐々木

しげる



鮭が飛ぶ

ほとぼしる命の瞬間

佐々木 しげる 写真集